

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ミツモトハウス株式会社	評価実施年月日	平成20年8月
評価実施構成員氏名	代表取締役 金子 敏幸 ・ 管理者 八重樫 真由美 ・ 介護支援専門員 桑山 則子 ・ 1階フロアスタッフ		
記録者氏名	八重樫 真由美	記録年月日	平成20年8月

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>平成17年、社長・スタッフで意見を出し合い、理念を作成しました。</p>		<p>今後もスタッフが理念に添って介護をするよう心がける。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>フロア等に提示し、いつでも理念をみて意識するよう心がけている。</p>		<p>日々、理念に目を通し実践するよう話していく。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>毎月発行している“あすなろ便り”に記載し、家族に送付している。また、町内の回覧板にも入れて頂き回してもらっている。</p>		<p>今後も継続する。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホームで飼っている動物を通し、庭先で挨拶を交わしたり、ホーム前を散歩されている地域の方にも声をかけている。</p>		<p>動物等を観に来てくれる子供達等がホームに立ち寄ってくれるよう努力する。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内のイベントに参加したり、ホームのイベント(あすなろ祭り)に地域の方も参加して頂いている。</p>	○	<p>ホームのイベントを継続し一人でも多くの地域の方々の参加が増える様、今後も努力していく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通し、地域の方等、介護で困っている方がいらっしゃる時には、紹介して頂けるようはなしている。</p>		<p>気軽に声を掛けてもらい、相談等しやすい雰囲気作りをする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	2ヶ月に1回行っている全体会議時、改善事項についてスタッフで話し合っている。	○ 一つでも多く改善するよう努力していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの出来事(野外レク・外食)の報告。また、ヒヤリハットの概要・件数の報告もし、意見を頂いている。	○ 今後ご家族の意見を頂き、介護の向上に努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護受給者の部屋確認に担当者が来訪時、入居希望者のあり・なし等を相談し、意見交換をしている。	○ 今後も市町村とのかかわりをして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修がある場合は、ホームより数名参加するようにしている。	必要のある方がいた場合、その都度支援するよう努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置し、虐待を防止するよう努めている。また、声がけの時きつい物言いにならない様フロア内で注意し合っている。	入居者様との距離に気を付け、慣れ合いでの声掛けにならないよう努める。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居に対しての問い合わせ後、ご本人・ご家族に2・3回お会いし、ホームへの質問等に答えている。又その際ご本人・ご家族の心配事に対する返答も行っている。身体レベルの低下等によりやむを得ず退去になる場合、主治医の意見等も参考にし、ご家族と今後について十分な話し合いをし納得して頂いている。	今後、ご本人・ご家族にホームの雰囲気・概要を納得した上で、入居して頂ける様努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コミュニケーションを多く持ち、出来るだけ入居者様の話に耳を傾け不満等を聞き入れている。		不安・不満を言える様な雰囲気づくりを心がける。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	生活の様子：月1回発行している“あすなろ便り”の一角に個々の生活の様子・病院での検査結果等を書き加え報告している。 金銭管理：毎月15日頃、預かり金の残高を確認した後、出納帳をコピーし、ご家族に送付している。 移動等：1F玄関内の掲示板に張り出ししている。		電話連絡等も増やし、報告を密にしていく様努める。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時、疑問・意見等を話して頂いている。また、運営推進会議を通し、ご家族の代表からも意見を頂き、今後に反映している。		ご家族来訪時、意見等を言いやすい雰囲気づくりに努める。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主任会議を月1度開催し、スタッフの意見等を聞き入れている。	○	可能な限りスタッフの意見等を聞き入れ、働きやすい環境づくりに努める。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	先方のご都合の良い日時に合わせるようにしている。		今後も先方のご都合に合わせていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者様の生活を崩さない様、極力移動は控えている。		スタッフの離職により、やむを得ず移動した際は管理者が極力フォローに入り、入居者様が早く環境に慣れるよう支援して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	2ヶ月に1度、職員を対象に内部研修を行っている。また経験年数等で、その人に外部研修へも参加をしている。	○ 研修等への参加を増やし、スキルアップに努める。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	小樽市認知症高齢者グループホーム連絡協議会・北海道グループホーム協議会の研修に参加し交流を図っている。	○ 交流の機会を増やし、情報交換できるよう努める。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	報告を密にし、常に相談等を行うようにしている。年に数回、食事会も行っている。	今後も継続する。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	勤務状態を把握し、可能な限り各フロアーに出向き、スタッフに声を掛け相談等を受けている。	向上心を持って働ける様支援する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前、最低2・3回はご本人と面接し、情報収集するように努めている。また来訪可能な方にはホームの見学をして頂き、生活の雰囲気を見てもらっている。	本人が納得してから入居して頂けるよう心がける。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	問い合わせ時を含め、最低2・3回は面接や電話連絡等に答えている。	今後も、ご家族が質問等に納得するまで説明させて頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	問い合わせ時に聞いた話を参考にし、ご本人に合ったサービスを提供している。	○	入居後、身体状況等の発見に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居後、可能な家族には来訪を頻回にして頂いている。また、かかわりを多く持ち新しい環境に早く慣れるよう支援している。	○	入居後、会話の中で情報収集をし、それを日常生活に役立てて行くよう努める
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	フロアの雰囲気づくりを大切に、何でも話せるよう努力している。また、出来る事は手伝って頂き、必要とされている事を感じて頂く。	○	個々の生き方を把握し、物事への考えに共感していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	信頼関係を大切に、些細な訴えにも耳を傾けるよう努力している。		来訪時には、日々の様子や変化など気付いた事を話し合い、共に良い方向に向かう様努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族と外出を楽しんだり、本人が希望し、身体レベル等に問題がない方に関しては、外泊の支援も行っている。		今後も継続する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来訪された時は、居室でお茶を飲みながら話をされたり、天気の良い日は車でドライブ等も行っている。		今後も支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様のほとんどがフロアで過ごしている時間が多く、ご自分の好きな場所に座りテレビを観たり、気に入った方と会話等を楽しんでいる。		トラベルなく生活して頂けるよう支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	身体低下等で、やむを得ず退去になった入居者様に対し、転移先へ面会に行ったり、ご家族と今後についてお話をしている。		退去後も、ご家族からの相談を受け対応して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の訴えに耳を傾け、出来るだけ意向に沿うよう努めている。	○	訴えを受け止め、不穏等にならないよう支援していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、面接時に詳しく話をきかせて頂いている。		今後も継続する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の趣味・興味を把握し、出来る事を見出し、お手伝い等して頂いている。また、身体状況の変化の早期発見に努めている。		今後も個々の状態把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングを行うと共に、毎日のミーティング時に話し合い、ご本人やご家族の意向に添えるように作成している。	○	確実に取り組んでいける計画を立てて行くよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院等でADL低下や認知の進行があった場合、スタッフからの情報を元に生活状態等を観察し、ご家族等と相談し計画の見直しをしている。		状態変化の把握に努める。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の流れは詳しく記録できている。記録パターンも定着し、引き継ぎ毎に情報の確認等を行っている。	○	プランに沿った記録を残すよう努力して行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族との外出・外泊・その他受診の送迎等、柔軟な対応を実施している。ホーム2棟(5ユニット)と小規模多機能との行き来等行っている。	○	小規模多機能との連携を充実させ、レク参加等を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	避難訓練等の消防の研修参加。定期的なボランティア、町内会と連携を取り行事参加や通信の回覧等も確立している。	○	研修・講演等を開催し、交流の場を増やしていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	各事業所のケアマネとは密に取っていません。現時点での他サービス利用等はありません。	○	今後、必要に応じ、その都度対応していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現時点での協働はしていない。	○	今後、連絡を密にし協働するよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	定期受診や往診にて、必要に応じ検査等をして頂いている。また急変時、電話連絡にて指示をもらっている。		今後も協力して頂けるよう努める。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診にも来て頂き、医師と相談しながら薬調整等行っている。		身体状況等を密に報告して行く。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護スタッフや協力医に相談をし、日常の健康管理に努める。		今後も継続していく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先へ面会に出向き、担当医師・看護師に状況を聞いている。また病状急変時、ホームにも連絡を頂いている。		今後変わらない支援をしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身体状況に応じ医療処置が必要になった場合は、往診・入院等の相談をかかりつけ医と話し合っている。	○	早めの連絡・相談等に努め、医師との連携を密にする。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	身体状況に応じ医療処置が必要になった場合は、往診・入院等のかかりつけ医と話し合っている。	○	医療との連携を密にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報交換を密にし、生活の様子・身体状況等を把握し、ご本人へのかかわりを増やす事により不安を軽減するように努める。	○	今後も個々のかかわりを工夫し、住み替え時の不安を早期に軽減するよう努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	排泄時の声掛けは耳元で話すよう心がけている。また排泄時の露出は、出来るだけ最小限にとどめ保護に努めている。	○	時折、コミュニケーションの延長で大きな声での対応が見うけられる為、スタッフの質の向上に向け個別の指導により組んでいきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人一人のレベルに合わせた対応を心がけている。	○	出来るだけ傍に寄り、目線や仕草などの訴えを逃さないよう努める。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースに沿った生活支援を行うように努める。	○	日により業務中心になる時もあるので、入居者様中心した業務になるよう度努力する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望の理容室・美容室がある場合は、ご家族の協力も得ながら、対応している。	○	朝の身仕度や入浴後の整容等、本人の希望を取り入れ支援してきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備・後片付けを個々のレベルに合わせ、お手伝いをして頂いている。	○	今後もかかわりを持つ中で、個々の力を引き出せる様、支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	水分を進める際、飲み物のメニューを見て頂き、ご本人の好きな飲み物を飲んで頂いている。また飲酒についても希望に添っている。		今後も継続する。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック用紙を記載し、排泄間隔を確認しながらトイレの誘導を促している。便秘に対しては主治医と相談しながら、下剤の調整を行っている。		今後も個々の排泄パターンの把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は決めさせて頂いているも、入浴日以外に入りたいとの訴え等は、今現在出ていません。入浴順番については本人の意向を聞き入れ決めている。	○	入浴日以外の希望が出た場合は、出来る限り意向に添えるよう努めていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々にペースに合わせて、支援している。		個々のペースに合わせて行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や趣味等を把握し、フロアで役割を持って頂く事で張り合いのある生活を送って頂いている。		かわりの中で、個々の出来る事を見出して行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方については居室に置き、買い物に行く際、持参して頂き、支払をして頂いている。		現状維持できるよう支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り希望に添うと共に、天気のよい時には日光浴を行うよう努力している。また、ご家族の協力も頂き、一緒に外出等もしている。		今後も、ご家族の協力を頂きながら支援していく。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の訴ったえ等については、ご家族の協力を頂き外出されている方もいらっしゃる。またフロアーにて年に数回ドライブ等に行き外出支援を行っている。		ご家族の協力を頂きながら、支援していく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話使用の希望がある場合、かける時間等を配慮し意向に添っている。また、ご本人への手紙等については、入居前ご家族にも渡してよいかの確認をとり、可能な方のみ手渡している。		宛名書き等を頼まれた時には、その都度対応している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時間は決めていないので、いつでも自由に入出入りして頂いている。ご本人・ご家族希望にて、フロアーや居室で会話等されている。		今後も継続する。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置し、身体・言葉の拘束を断続するよう努力している。	○	本人の生活に危険を伴う場合の行動の制止が時にあります。出来るだけ付き添い制止をなくするよう心がけていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	オープン当初より断続している。		今後も断続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りを徹底し、個々の行動の把握に努めている。夜間、身体の安全の為、数名の方に限り、ご家族に同意書を頂きセンサーを使用している。		今後も個々の行動の把握に努め、安全に生活が出来るよう支援する。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々のレベルに合わせ、管理する物を決めている。(剃刀・針等はスタッフ管理)		入居者様の状況の変化を把握し、その都度対応していく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の状態を把握し、その時々への対応に努めている。		今後も継続し事故を事前に防ぐ。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	2ヶ月に1度行っている全体会議にて、内部研修を行ったり、外部での研修へも参加している。また各フロアにマニュアルを置き、個々に勉強をしてもらっている。	○	すべてのスタッフが対応できるよう研修を行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議を通し、町内会長様に連絡ルート等を教えて頂き、地域の方の協力を得られるようお願いをしている。また消防署で行う訓練にも参加している。	○	ホーム内での避難訓練も予定している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族来訪時、リスク等を伝え対応等について話し合っている。	○	今後もご家族との対話を密にし、信頼関係を深めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の生活の様子や表情観察を行うと共に、バイタル測定を行い状態に変化等がある場合、早急に報告するよう努めている。	○	体調変化の早期発見に努めると共に、対応を共有するよう心がける。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全薬の内容や副作用等は周知していない為、フロア内に薬剤情報のファイルを置き、スタッフそれぞれがいつでも確認できるようにしている。	○	薬の大切さを全スタッフが理解して扱うよう、勉強する機会を増やしたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表を用いて、排便等のサイクルを把握し、運動や水分量に気を付けると共に、主治医と相談をしながら下剤の調整を行っている。		今後も継続していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時と食後3回、自歯・義歯の洗浄を行い、夜間は義歯を外し、ポリデント洗浄をしている。		生活習慣の延長で、口腔内の洗浄を拒否されている方もいるが、最低1日1回の洗浄に協力して頂くよう声掛けに努めている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立をたて、食事・水分量を毎日バイタル表に記載し把握に努めている。また状態に応じ食事形態の工夫も行っている。		声掛け等も工夫し、水分補給をして頂くと共に、身体状態の把握に努める。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを各フロアに置き、感染症に対する対応を周知するよう努めている。また手すり等の消毒も行っている。インフルエンザの予防接種は全入居者・スタッフが受けている。	○	感染症に対し、全スタッフが理解するよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	買い物購入日を週二回にし、鮮度が良いうちに食すよう心がけている。また毎食後、台所・調理器具の消毒もおこなっている。		今後も食材・衛生管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	動物セラピーを通し、近隣の方々が気楽に立ち寄って親しみが持てるよう、環境づくりを心がけている。		今後も、環境づくりを工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア等に、その時期にあった絵や花等を飾り、季節感を感じて頂くよう努力している。また、テレビ等の音量等に気をつけ、不快にならないよう努めている。		今後も継続して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の窓辺にイスを置くなどし、景色を見ながら自分の時間が持てるようにしている。また日中、自室で休まれるなど、個人の意向にそっている。		個々の過ごし方を把握し対応するよう努める。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご家族・ご本人に自宅で使用していた家具等を使って頂くよう伝え、配置等もご本人と相談し使いやすいよう配置している。		今後も使い慣れた家具等を使用して頂く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気を心がけ、常に湿度を確認し、濡れタオルを掛けたり、加湿器を使用し調節している。		今後も継続する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりを多めに設置、フローアもバリアフリーにしている。滑り止めのくつ下(カバ)も履いて頂いている。</p>		<p>すべり止めの摩耗などに気を配り、早めの交換を心がけている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々の「出来ること・出来ないこと」を把握し、個人に応じた手伝いをして頂いている。</p>		<p>本人の思っている出来ることが現実的に不可能であっても受容し、聞いてあげることにより、心の安定を得られるよう心がけてる。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭に東屋や畑を作り、入居者様の活動が広がるよう活用している。</p>		<p>環境を活かしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)